

島本と西国街道 -ひとものみち-

島本町は、まちの中心を西国街道が通り、また三川合流の地で、古来水陸交通の要衝として栄えてきました。

常設展では、西国街道を中心に後鳥羽上皇を祀る水無瀬神宮や史跡桜井駅跡など、数々の文化財を紹介しています。

また、縄文時代から近世にわたる遺跡の出土品も展示しています。

資料館の建物とともに、島本町の豊かな自然と文化、そして歴史をお楽しみください。

須恵器 大甕

町指定文化財 平成 27 年 4 月



平成 6 年、淀川河川敷中洲「広瀬南遺跡」より湧水で露呈した河床に埋没した状態で、野外考古学調査を行っていた地域住民により発見されました。

上流には山崎津推定地があり、奈良時代から平安時代にかけて港として栄えていたとされています。当時荷物を集荷した船が、大阪湾から淀川を遡り都へと物資の運搬がされていたことから、出土地付近に物資輸送の中継地として、河港が存在したと考えられます。

水無瀬駒 関連資料

町指定文化財 平成 21・24 年 4 月



しょうぎす 「小将棋 漆書」「中将棋 墨書」「象戯圖」

しょうぎこまにつき 「将碁馬日記」

水無瀬神宮の宮司を務める水無瀬家には、安土桃山時代より伝わる「水無瀬駒」があります。公家で能筆家であった水無瀬兼成 (1514-1602) は駒の銘を書き 89 歳で亡くなるまでに 700 組以上もの将棋駒を制作しています。作者と制作年月日が特定できる最古の将棋駒ともいわれています。

また「将碁馬日記」には、天正 18 年から慶長 7 年 (1590-1602) まで各年に、兼成が依頼主に応じて制作した駒の譲り先が書かれています。日記の中に、後陽成天皇や正親町上皇、豊臣 秀次や徳川 家康など当時の天皇や公家、武将などが次々と登場します。

桜井周辺図

旧麗天館を中心に近畿一円の楠公ゆかりの地を描いたパノラマ図です。

絹本・軸装、紙本・衝立があり、右上には「皇紀二千六百一年春 一瀬 桑吉氏高囑 初三郎謹作 (印)」とあります。

このことより、一瀬 桑吉氏の依頼を受けて「大正の広重」と呼ばれた、鳥瞰図絵師 吉田初三郎氏が描いた作品ということが分かります。

作風は大胆なデフォルメが目を引き、学習院普通科をご卒業の皇太子 (昭和天皇) が男山八幡に行啓の折、貴賓電車中にて初三郎処女作「京阪電車案内図」が目にとまり、ご学友のお土産にされたことから作品が認められ一躍有名になりました。



吉田 初三郎作 「桜井周辺図」
絹本・軸装

戊辰戦争

明治元年 (1868) 鳥羽伏見の戦いを、後世に伝える資料です。

幕府軍は官軍を防ぐため、天王山のふもとの山崎橋本の間で交戦しました。激しい戦闘は数時間に及び、その時激しい音とともに一発の流れ弾が広瀬の民家の大黒柱をかすめました。



「砲弾」

